

吳  
白  
中  
佐

# 戦争ノ實驗

露國兵事新聞連續

第二號



參謀本部第一部

1466

# 戦争ノ實驗 第二號

## ロ) 人篇

ホーヘンローエ(エインゲリフインゲン)氏曰ク敗績シタル事ヲ自覺スル者ハ眞ニ敗績シタルナリト吾人ハ九連城ノ戰鬪後退却シ瓦房溝ノ守ヲ棄テ安平及亮甲山ノ陣地ヲ敵手ニ委ネ遼陽ハ守ヲ失ヒ九月ノ攻勢運動ハ失敗ニ終リ堅固ニ築城セル沙河ノ陣地ヲ敵ノ凱歌ニ獻シ遂ニ奉天ヲモ棄ルニ抵レリ然レトモ人アリ若シ吾人ノ愛スヘキ部隊ニ對シ「汝ハ敗績シタルヤ」ト問ハ、唯「否」ノ一言ヲ耳ニセン多數ノ將校モ兵卒ノ大集團モ彼等ノ懷抱セル感想ハ皆斯ノ如シ

吾人ノ兵卒ハ非常ナル熱心ヲ以テ四十度以上ノ炎熱ヲ冒シ塵埃ニ塗レツ、行軍ノ苦痛ヲ凌キ且ツ睡眠ノ暇ナクシテ彈雨ノ下ニ立ツコト十日或ハ十二日ニ亘ルモ毫モ屈セサルノ態度ハ實ニ一點ノ間然スル處ナシ

三月五日奉天戰役ノ當時將校ハ悉ク斃レテ一人ノ指揮官ヲモ有セス此際我兵ハ鐵道ニ沿フテ漸次ニ背進シ他部隊ノ將校ニテモ喜ンテ其ノ指揮下ニ投シ更ニ戰鬪ヲ

繼續ヒントセリ慘憺タル激戦ノ際或ハ悲絶ナル大戰後ト雖トモ未タ嘗テ意氣ノ鎮沈シタルヲ示サス面ニハ憂愁ノ痕ナク戰鬪我軍ノ不利ニ終ルモ仍ホ以テ敵軍ヨリ強盛ナリト確信シ敗北ノ原因ヲ常ニ「退却」ヲ命令ニ歸セリ

右ハ即チ我兵卒ノ眞想ヲ描寫シタルモノトス勇敢ナル彼等ノ行動ニ就テハ既ニ世人ノ齊シク熟知スル處ナリ就中壯年ノ基幹隊即チ現役團ハ夫ノ豫備隊ト比較スレハ戰鬪能力頗ル優秀ナリ而シテ體格及性能兩ナカラ特ニ羸弱ナルハ八十年代及九十年代前半期ノ後備兵トス然レトモ東部西伯利狙撃兵聯隊ヲ除キ所謂現役團ノ數甚タ寡カリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ歐露ノ各聯隊ニ於テハ補充トシテ現役兵ヲ他ニ派遣シタルノミナラス新タニ編成シタル狙撃聯隊第三大隊ノ勳員ヲ擔任シタル爲メ現役兵ノ數ヲ減少スルニ到レリ

下士ヲ除キ二十名以上ノ現役兵ヲ有シタル中隊ハ甚タ稀ナリ然レトモ是等小數ノ下士卒ハ常ニ中隊ノ中堅トナリテ旺盛ナル志氣ト勇壯ナル活氣トヲ示セリ若シ勳員ニ際シ充分ノ餘日ヲ有シタランニハ補充兵ノ性能ヲ發揮スルコトヲ得タランモ實際ハ其機會ニ乏シカリシ蓋シ初期ノ大會戰ニ於テハ數多ノ將校下士及無數ノ現役兵隊列ヲ離ル、ヲ常トス此場合ニ補充隊ヨリ所要ノ人員ヲ補充スルノミニテモ

既ニ容易ノ業ニアラス此際少壯ナル下士卒ハ他ノ者ト比較シ嶄然趣ヲ異ニスル所  
アラシ

新來ノ補充兵ハ(補充大隊)身體虛弱ニシテ軍事教育ニ乏シク彼等ヲ教化シテ一個ノ  
戦員トナスニハ中隊ニ對シ多大ノ困難ヲ與フルヲ常トス

實驗ニ因ルニ豫後備兵ノ外觀ハ直ニ舊態ニ復シ教育ヲ施スニ隨ヒ殊ニ著シキノ感  
アリ故ニ其統御機關ハ常ニ此事ヲ忽ニスヘカラス

「ウイールヘルム」皇帝曰ク「後備兵ニ對シテ現役兵同様ノ要求ヲ爲サント欲セハ先ツ後  
備兵ノ體力如何ヲ顧慮セサル可カラス實ニ千古ノ箴言ト謂フ可シ故ニ補充大隊ノ  
幹部ニハ軍事ニ精通シ職務ニ忠實ニシテ能ク其任務ヲ實行シ得ル有爲ノ將校ヲ任  
命シ苟且ニモ無能ノ者ヲ以テ之ニ充ツルカ如キコトアル可ラス又補充大隊ハ必ス  
自己ノ野戦隊ヲ補充セサルヘカラス

豫備將校殊ニ少尉ハ概ネ軍人的態度ヲ脱スルヲ常トス且又彼等ハ己レノ職業ニ制  
セラレ獻身的軍務ニ盡瘁スルノ精神ニ乏シキヲ以テ補充兵ノ指揮官トシテ不適當  
ナリ故ニ斯ル不適當ノ將校ニ軍務ヲ委任スルハ輕視スヘカラサルコトトス今回ノ  
如ク一部ノ動員ヲ行フ場合ニハ補充隊ヲ教育スルニ更ニ一段ノ注意ヲナシ非動員

部隊ノ優秀ナル中隊長及大隊長ヲシテ其局ニ當ラシメ得ヘシ其他多クノ下級將校ヲ撰拔スル場合ニハ宜シク前掲ノ事情ヲ斟酌スルヲ要ス又教育ノ任ニ當レル將校ハ野戰部隊ニ補充兵ヲ交附スルマテ彼等ト同行セサルヘカラス若シ斯ル事ヲ忽ニセハ其結果ハ軍務ヲ阻害スルニ到ル

世人ハ兵卒ヲ非難スルニ或ハ獨立ノ志望ヲ有セサルヲ以テシ或ハ讀書力ニ乏シキヲ以テスル等常ニ第二ノ方面ニ於テス斯ル非難ハ稍理由ナキニアラサルモ其原因ハ一般ニ我國民ノ學識幼稚ナルト一ハ軍隊ノ教育法如何ニ存ス抑モ兵卒ハ先天的愚鈍ナルニアラス否總テノ事ヲ理解シ且ツ之ヲ實行スルノ能力ヲ有ス要スル所唯明瞭ニ指示スルニアリ

下士ハ斯ル兵卒ヨリ昇進セシムルニヨリ彼等ト同一ノ非難ヲ受ケ將校ノ器ニアラサルハ(其多數者)自然ノ數トス

戰場ニ蒞ミテハ職務ニ忠實ニシテ一身ヲ犠牲ニ供シ勇敢ニシテ剛毅ナル我將校ト難トモ狀況判斷、獨斷專行、決斷敏捷ノ點ニ就テハ尙ホ非難ヲ免ル、能ハス

今將校ニ對スル是等ノ非難ト兵卒ニ對スルモノトヲ照應スルニ其性質殆ント一ナリ故ニ其原因ヲ考究セサルヘカラス今其原因トシテ左ノ二項ヲ舉ケン

(一) 一般ニ我國人ノ智識幼稚ナルコト

故ニ軍人社會ニ於テモ他ノ社會ニ等シク汎ク軍事上ノ事ヲ明ニセス

(二) 智識ノ程度低キ爲メ軍事教育及改良ヲ正當ニ實行シ得サルコト

第一ノ原因ニ就テハ吾人ハ之ヲ詳論セサルヘシ否吾人ノミニアラス何人カ能ク社會文明ノ程度ニ對シテ詳論スル者アラシヤ抑モ社會文明ノ程度ハ他ノ當事者ニ對スルヨリモ軍事當局者ノ爲メ一層必要ナルコト、ス然レトモ此原因ヲ除却スルハ軍事當局者以外ノ責任トス

第二ノ原因ニ就テハ前者ヨリ一層吾人ニ關係ヲ有スルヲ以テ今此ニ付數言セン著名ナル兵學家ホーヘンローエインダグリン氏曰ク軍隊ノ教育ハ檢閲ノ如何ニアリト

軍隊ニハ上下通シテ遵奉スヘキ一ノ規則アリ現時ニ於ケル軍事教育ノ要求ハ(將校及下士卒ニ論ナク)若シ各自ノ意見ヲ提出シ若クハ反問ヲ試ル者アラハ常ニ默レ抗言スルナ誰レカ命令シタト思フ等ノ答辯ヲ與フルニアリ是レ即チ我軍人ノ事ニ臨ミテ躊躇シ獨斷專行ニ乏シク智識ノ發達セサル首要ノ原因タリ

常ニ諸般ノ作業時間ヲ適當ニ配當シ能ハサルコト及作業ノ性質其他將校ノ勤務中

五

最モ重大視スル檢閲ハ將校ヲシテ一意専心檢閲ノ要求ニ適應セシメントスルノ弊害ヲ惹起スルニ抵レリ加之我國ニ於テハ或種ノ問題ニ對シ明確ナル定義ヲ有セス又露人ノ天性トシテ法規典令(歴史、法律教令等)ノ解釋ニ幾分ノ自由ヲ有スル事等ヲ思フトキハ以テ軍事教育上ニ於ケル我國ノ缺點ヲ説明シ得ヘシ

兵卒教育ノ問題ハ理論上ニ於テハ久シキ以前ヨリ整然トシテ決定シ居ルモ吾人ノ第一項ニ示シタル原因ハ歴史的關係ト相俟チ未タ全ク決定セラレズ

射程長大ヲ加ヘテヨリ以來現時ニ於ケル戰場ノ範圍ハ著シク増進シ戰鬪ハ容易ニ勝敗ヲ決セス一時的勇氣ハ寧ロ忍耐力ニ苦カラサルニ到レリ

一時的勇氣ハ種々ノ方法ヲ以テ喚起シ得ヘク之ニ對シテ特ニ教育ヲ要セス否突然ノ場合ニ於テモ非常ニ士氣ヲ喚起スルコトヲ得之ニ反シ忍耐力ハ平素ヨリ之ヲ養成セサルヘカラス

兵卒ノ人ト爲ルヲ輕視セスシテ常ニ其性質如何ニ注意シ熱誠以テ彼ニ蒞ミ自重心ヲ適當ニ利用スル等ノ事ハ部下ニ對シテ忍耐力即チ上官ニ對スル信頼尊敬及愛著心ヲ養成スルヲ必要ノ要素トス果シテ斯ノ如クナルトキハ我兵卒ハ水火ヲモ避ケス如何ナル嚴格モ恐レヌ却テ長官ヲ愛敬スルニ到ラン

兵卒ノ最モ愛敬スル所ノ者ハ軍隊ノ父換言セハ己レニ過失アルトキハ苛責スルモ  
危急ノ場合ニ際シ之ヲ愛撫慰藉スル所ノ指揮官トス然レトモ我國ニ於テハ新兵ヲ  
目スルニ熱心以テ職務ニ従事スル者ナリト(但シ少數ノ例外者ナキニアラス)信セサ  
ルモノ尠カラサルハ遺憾トスルトコロナリ  
若シ新兵ノ時ニ於テ其長官タル者熱誠以テ彼等ニ蒞ミ兵卒トシテ適當ナル待遇ヲ  
與ヘハ長官ノ意ニ從ハサルモノナシ新兵ハ恰モ蠟ノ如ク從順ナリ然レトモ亦蠟ノ  
如ク汚染シ易シ若シ一度汚染スルコトアラシカ之ヲ匡正スルコト益々難ク遂ニハ  
全ク匡正シ能ハサルニ至ラン  
新兵ノ入營當初ヨリ之ニ對スル待遇ヲ慎ミ又將校タル者ハ新兵ニ對スルニ單ニ公  
務上ノミニ偏僻ス可ラス而シテ將校タルノ品位ヲ辱シメス又兵卒ニ徂ル、コトナ  
ク常ニ之ニ接近スルトキハ兵卒ヲシテ親切ニシテ同情アル良長官タルコトヲ自得  
シ得セシム將校ニシテ斯ノ如ク兵卒ニ近接セハ能ク各兵ノ人物ヲ會得シ過激ノ言  
語ヲ弄セスシテ皇帝及國家ニ對スルノ愛及自重心、名譽心、軍人的精神、服從、所屬部隊  
ニ對スル愛著心ヲ注入シ得ラル上官タル者ハ宜シク兵卒ノ精神ヲ高尚ナラシムル  
事ニツキ諸般ノ手段ヲ盡サルベカラス就中最モ重要ナルハ罵詈、誹謗ヲ慎ムニアリ

七

1473



過失者ニ對シ最モ有効ナル手段ハ彼等ヲ苛責スルニアラス職責ノ如何ヲ自覺セシムルニアリスルトキハ自己ノ職分ヲ會得シ從テ職務ニ忠實ナルニ到ル之ニ反シテ常ニ嘲罵ヲ逞フスルトキハ兵卒ヲシテ遲鈍ナラシメ遂ニハ最モ不良ナル無感覺者タラシムルニ到ル

吾人ハ前段ニ於テ兵士ニ關スル事ヲ詳論シ得タリト信ス今ヤ陸軍學校ノ事ニ就テ論スル所アラシ

#### 學 校

士官學校本來ノ任務ハ將校ヲ養成シ之ヲシテ其眞理ヲ會得セシメ幼稚ナル兵卒ヲ愛撫シ徒ニ將校ヲシテ他動的機械タラシメサル如ク教育スルニ在リ吾人ハ我青年將校ノ過半數ニ對シテ大ニ信賴スル者ナリ然レトモ彼等ノ任務ハ前途尙ホ遼遠ナリ

今回ノ戰役ニ於テ喚起セラレタル第二ノ問題ハ將校ノ缺乏トス  
 今回ノ如ク戰鬪長期ニ亘リ將校ノ缺乏多大ニシテ現時ニ於テモ未タ豫備少尉及員外少尉ヲ解散セシメ得サル場合ニ於テ此問題ハ極メテ主要ナリトス如何トナレハ豫備少尉及員外少尉ハ著シク軍隊的精神ニ乏シク且ツ彼等ノ習得セル唯一ノ操典

(之レトテモ頗ル怪シ)ハ現時ニ於テハ不充分ナルニ至レリ加フルニ彼等ハ軍事教育ニ乏シキヲ以テ軍人社會ニ於テモ彼等ノ意見ヲ採用スルコト稀ナリ彼等ノ間ニモ亦例外トシテ適良ナル者ナキニアラスト雖トモ未タ以テ貴重ノ生命ヲ托スルコト能ハス故ニ至急左ノ手段ヲ講スルヲ要ス

(一) 補充隊ハ野戰隊ノ缺員ヲ補充スル爲メ將校ヲ派遣シタル後ニ在テモ仍ホ充分

ノ定員(假シ現時ノ處豫備將校ヲ加フルニシテモ)ヲ有スル如ク改正スルヲ要ス

(二) 現時ニ於テハ動員ニ際シ長官タル人々ヲ不適當ナル職務ニ轉職セシムルヲ常トス斯ル弊害ヲ避クル爲メ將校ノ補職法ヲ改正スヘシ

假令ハ大隊長ニシテ師團經理部員又ハ師團輜重隊長トナリ中隊長ニシテ軍團輸送小隊長又ハ兵站部ニ轉職シ聯隊副官ニシテ中隊長ニ補セラレ、カ如キ之

ナリ

(三) 後方勤務ノ状態ヲ一層適良ナラシムルコト即チ現時後方勤務ニ従事スル將校

ハ前方ノ野戰隊附將校ト比較シ生命ノ安全ナルニモ係ハラス多額ノ俸給ヲ受領ス之ニ反シ野戰隊將校ハ俸給少ナキノミナラス已ニ代リテ後方勤務ニ轉職セル將校ノ職務俸スラ受領スルヲ得スシテ單ニ官職ニ應シテ日當ヲ受ルノミ

九

トス

前掲ノ如キ事情ニ依リ將校ニシテ後方勤務ヲ希望スル者多キハ敢テ不可思議ノ事ニアラス是即チ官制ヲ誤リタル結果ニ外ナラス

(四) 豫備少尉ノ軍事教育(實科共)ヲ高メ且ツ成ルヘク其人員ヲ多クスルヲ要ス

彼等ハ召集ニ際シ現役將校ニ比較シテ非常ノ特權ヲ有ス即チ彼等ハ文官トシテ受領セル俸給ヲ受クル爲メ其多クハ上長官ノ受クヘキ金額ヲ受領シツ、アリ且ツ彼等ノ爲メ其所屬官衙ヨリノ要求大ナルヲ以テ戰時軍職ニ服スルノ際不利益ヲ蒙ル等ノ事ナシ

豫備少尉ノ教育召集ハ以前ノ如ク三年目或ハ四年目トセスシテ屢施行セサルヘカラス且其檢閲モ一層嚴格ニシ不熱心者ニ對シテハ罰則ヲ設クルヲ要ス而シテ其最良ノ手段ハ翌年所屬部隊ニ召集シ成績不良ナル者ハ合格スルマテ召集ヲ解除セサルヲ可トス

豫備將校及少尉ハ動員後野戰隊ニ服職セシムルヲ要ス斯ルトキハ現役將校ト共ニ起臥シ嚴格ナル長官ノ監督ヲ受ル爲メ後方勤務ニ任スル不紀律ナル軍衙ニ就職スルニ比スレハ彼等ノ沈衰セル軍隊的精神ハ一層速ニ恢復シ得ラルヘシ

十

1476

下士卒中伎倆拔群ニシテ其精神モ又々將校トシテ恥ツル所ナキ者ニ對シ員外將校ナル官職ヲ報酬的ニ與フル如クセハ自然ニ下士卒ハ其官職ニ對シ敬意ヲ表スルニ至ルヘキモ今ノ所謂員外少尉ハ純然タル曹長若クハ下士ニシテ徒ニ國庫ノ負擔ヲ重カラシムルニ過キス

此ニ於テカ我國ニ於テハ下士ノ教育程度ヲ高メ彼等ヲシテ將校ニ代用セントスルノ必要ヲ感スルニ到レリ目下下士ニシテ望ヲ屬シ得ヘキ者敢テ寡キニアラス況ンヤ小部隊ノ勤務ニ服セシムルニ於テオヤ然リト雖トモ普通ノ下士ヲシテ吾人ノ希望スル程度ニ達セシムルニハ一ニ我國民ノ教育程度如何ニ存ス而シテ我國民ノ天性ハ大ニ此問題ヲ容易ニシ豫期ノ効果ヲ奏スル敢テ難キニアラス要ハ現狀ヲ進ムルニアリ

將校トシテ廣ク軍事教育ニ精通スルノ必要ハ敢テ吾人ノ喋々ヲ要セス而シテ學識淺薄ナル者ハ他ヲ模倣シ得ルモ創造スル能ハス又實驗ハ職工又ハ第二流ノ技師タル人物ヲ出スニ過キス

適當ノ判斷、臨機應變ノ能力及創造力ハ唯修學ニ依テノミ得ラル、モノトス

學識ノ必要ナルハ古今ヲ通シテ一ナリ加フルニ現時ノ如ク舉國皆兵ノ時代ニアリ

テハ其必要愈々大ナリ現時ニ於ケル戦闘ノ成效ハ下級指揮官ノ才識ト斷乎タル決心トニ俟ツコト甚タ多シ若シ彼等ニシテ業務ニ通セサレハ假令英將ノ計畫ト雖トモ何ノ得ル所ナクシテ終ラン

世間往々學問ニ熱注スル將校ハ職務ヲ忽ニスルノ僻アルヲ以テ學校ノ作業ハ却テ業務ヲ阻害ストノ認見ヲ抱クモノアリト雖トモ是レ決シテ然ラス學識ニ富メル將校ハ自己ノ職責ヲ確實ニ實行スルノ必要ヲ理解スルヲ以テ學識淺薄ナル者ニ比較スレハ一層熱心ニ業務ヲ勵ムノミナラス學識アル者ハ其是非ヲ辨知セサル者ヨリ自ラ進ミテ決行セントスルノ勇氣アルハ自然ノ數ニアラスヤ將校ニシテ一度學理ヲ會得セハ虚ヲ變シテ實トナシ決勝ノ場合ニ際シ確乎不拔ノ自信力ヲ表證スルモノトス

今回ノ戦役ニ於テ我兵卒ハ驚クヘキ勇氣ヲ示シ露國ヲシテ永久其勇ヲ驕ラシムルニ餘リアリトス又將校モ個人的勇敢ナル點ニ於テハ毫モ非難スルノ餘地ナシ若シ彼等ニ對シ聊カニテモ非難スヘキ事アラハ之レ彼等ノ罪過ニアラス

## 八 戰術

(一) 編制

今回ノ戰役ニ於テ左ノ二問題ヲ生セリ即チ一ハ師團騎兵ニ關スル者ニシテ一ハ戰術的見地ヨリ平時ニ於テモ砲兵ヲ師團長ニ隸屬セシムヘシテウ事之レナリ

現今ニ於ケル火力ノ性能ニ因リ一方ニ於テハ交戰部隊ノ認識困難ナルト又一方ニ於テハ戰團材料ノ威力激甚ヲ極ムルノ結果其指揮官タル師團長ハ情況ヲ明カニスル爲メ常ニ明確ナル羅針盤ヲ必要トス

故ニ師團長ハ己レニ必要ナル諸件ヲ熟知シ且自己ニ關聯セル軍隊ノ運命ニ就キ大ニ意ヲ用エル特殊ノ偵察機關ヲ設クルハ最モ必要ナリ

今ヤ歩兵聯隊ニハ乘馬偵察隊編成セラレ偉大ノ効力ヲ顯ハセリ將校二名下士卒百名

吾人ハ希望ス若シ經費ノ都合ニヨリ平時定員ヲ置クコト能ハストセハ騎乘偵及察監視等ノ業務ヲ教育スル爲メ切テ其幹部次ニテモ設置スヘシ

若シ乘馬偵察隊ヲ置カサル場合ニハ師團騎兵ニ準シタル二乃至三個中隊ノ騎兵ヲ有スレハ足レリ

第二ノ問題ハ戰役ノ前半期間殊ニ其必要ヲ感セリ砲兵ノ陣地撰定火力ノ統一目標監視及任務等ニ就キ爭ヲ惹起シタル果シテ幾回ソ

後ニ到リテ斯ル争ヲ止メ一層自他ノ關係ヲ知ルニ迫ヒ戦争ノ場合ニハ敢テ争論スルノ必要ナク問題ハ自然的ニシテ極メテ單純ナルコトヲ了解スルニ抵レリト雖トモ斯ノ如ク了解スルニ到ルマテ敵ニ對スルノ好機ヲ逸シ又無益ノ死傷ヲ生シタルコト屢ナリ

吾人ノ意見ニ據ルニ此問題ハ「責任者指揮ヲ探ルヘシ」テウ事ヲ了解セハ極メテ單純ナルヲ覺ユ責任者タル者ハ業務ノ有利上悉ク所屬ノ材料ヲ知ラサルヘカラス斯クシテ自ラ準備セハ最大ノ効果ヲ收メ得ヘシ

斯ル問題ハ現今ニ到リ新ニ起リタル者ニアラサルモ砲火ノ威力益々強大ヲ加ヘタル爲メ一層鋒銳ヲ銳カラシムルニ到レリ

工兵ハ一師團ニ一中隊宛ヲ配屬セハ業務上充分ナリト認ム

師團ノ直屬部隊トシテ機關砲隊十六乃至二十門ヲ置クハ最モ必要ナリ

今回ノ戰役中機關砲ハ偉大ノ効力ヲ現ハセリ敵ニ機關砲ヲ有シ我軍之ヲ有セサルトキハ士氣ニ影響スルコト頗ル大ナリ

奉天戰役ノ際千九百五年三月第四百十步兵聯隊ノ戰鬪地區ニハ若干ノ機關砲ヲ有

シタルニヨリ日本軍ハ聯隊ノ占據セル村落ニ近接セントシテ屢々失敗シ又遼陽ニ於テ第一西伯利軍團ノ機關砲ハ非常ノ効力ヲ現ハシテ人目ヲ聳動セリ然レトモ機關砲ハ師團ニ直屬セシメ聯隊ニ附屬スヘカラス換言セハ特設部隊トシテ師團長ニ隸屬セシメ其指示ニ從ヒ行動セシムヘシ  
電話及輕氣球ノ事ハ既ニ前篇ニ説述セリ

(二) 軍隊統御

戰鬪ノ性質複雑ヲ加フルニ隨ヒ部隊長ノ獨立ハ益々價值ヲ増進スルニ到レリ  
現時ノ戰鬪ニ於テ効果ヲ完フセントセハ各人其目的ヲ正シク且ツ適當ニ了解シテ  
下一團トナリテ全般ノ目的ヲ遂行スルニアリ

命令ノ確實ハ目的ノ明瞭ニ一步ヲ讓ルニ至レリ故ニ其結果トシテ現時ノ戰鬪ヲ首尾克ク全フスルニハ左ノ事項ヲ必要トス

(イ) 戰場ノ一地區ノミナラス爲シ得レハ戰場全部ノ現場ニ精通スルコト

一般ノ狀況ニ通セサルハ特ニ戰鬪ノ際甚々悲ムヘキ事トス蓋シ自信シテ自己ノ任務ヲ遂行スルニハ一般ノ狀況ヲ知ルノ外ナシ

通報ノ傳達ハ多ク其時機ヲ失シタル爲メ管ニ比隣ノ師團ノミナラス仍ホ各部



隊ノ地區間ニ於テモ將校ノ間ニ何等ノ連繫ナク之カ爲メ假ヒ他ノ軍ニセヨ其  
戰鬪地區ニ於テ戰鬪上重大ノ出來事發生シツツアル事ヲ全ク知ラザリシハ吾  
人ノ屢々實見シタル處ナリ

(ロ)

自己ノ戰區内ニ於ケル現狀ノ報告ハ充分完全ナル者タラサルヘラカス之ヲ傳  
達スル唯一ノ方法ハ一時間乃至一時間半毎ニ聯隊長ヨリ發スル定期通報ニシ  
テ最モ重大ナル場合ニハ猶一層傳達ヲ頻繁ニシ又將校斥候ヲ續發スルニアリ  
高級指揮官ヲシテ戰區ノ現狀ニ精通セシメ泰然トシテ戰況ヲ觀察シ機ニ望ミ  
テ適當ノ所置ヲ採ラシメ得ルハ確實ナル情報ヲ絶ヘス供給スルニアリ

(ハ)

戰鬪中連繫ヲ保持スル事ハ成ルヘク汎キニ涉ラサルヘカラス故ニ各部隊ハ偶  
然戰區(師團、軍團等)ヲ通過スル場合ニ於テモ必ス此事ヲ其司令官ニ報告スル  
ヲ要ス

(ニ)

各部隊戰鬪ヲ交ユルノ際砲兵ニシテ自己ノ到着シタル事ヲ通知セス他ノ戰區  
ニ砲火ヲ送リタル如キハ其實例ニ乏シカラス斯ノ如キ失錯ノ結果ハ重大ノ場  
合ニ混亂ヲ來シ統御ノ完全ヲ失ヒ延テ作戰計畫ヲ破壞スルニ到ル  
然レトモ大戰鬪ヲ行フ際最モ有害ナルハ臨時ニ編成セラル、支隊トス

蓋シ基準機關(師團、軍團及聯隊ニテモ)其力ヲ減殺セラレ斯ル支隊ノ戰鬪隊ハ縱長ニ連繫ヲ有セサル爲メ動作ノ一致ト戰區ノ責任ヲ實行シ能ハサルニ到ル之カ爲メ機關ハ其完全ヲ破壞セラレ隨テ各部ト頭首トノ間ニ於ケル機關的連繫ハ既ニ存在セルノ結果ヲ生ス

其他之カ爲メ生スル他ノ不便(經理、軍政等ハ敢テ吾人ノ喋々ヲ要セスシテ明ナリ殊ニ軍隊ニシテ斯ル支隊ヲ編成スル爲メ他ノ軍團)又軍ニテモ)ニ編入セラルハ場合ニハ更ニ一段ノ困難ヲ感ス

斯ル編成ノ關係ニ就テハ歴史ノ既ニ證明スル處ナリ令ヤ實驗上其事ヲ一層確實ニセリ

(ホ) 命令ノ明瞭ハ統御上必要ノ事項タリ斯ル事ハ戰鬪ニ參加シタルモノニシテ始メテ其眞價ヲ解シ得ラル若シ上級機關ニシテ少シク意ヲ忽ニスルトキハ部下ハ其命令ヲ實行シ得ス質問及説明ノ爲メ徒ニ時間ヲ要シ遂ニ好機ヲ逸スルニ抵ル

吾人ハ現時ニ於テモ仍ホ自己ノ意志ヲ明確ニ發表シ能ハサルコトヲ苦悶シツ

平時ニ於テ學校其他ノ作業ニ従事スルノ際吾人ノ務ムヘキ業務ハ僅少ニアラス

第一ハ與ヘラレタル命令ヲ明ニ了解スルニアリ

第二ハ實行トス

此場合ニ於テ注意ト業務ニ對スルノ熱心ハ重大ノ價值ヲ有ス

現今命令ノ書式ハ野戰式ヲ用ユルニ抵レリ(電信及電話筆記故ニ平素ヨリ作戰命令

ニ對スルノ心得ヲ以テ意ヲ忽ニセス此業務ニ慣レサルヘカラス

電話ノ事ニ就テハ既ニ説述シタル如ク通信容易ナルトキハ微細ノ事ニ干涉シ戰爭

ニ對シテ大ニ獨立ヲ迫害スルノ不結果ヲ來シ又些末ノ事項ヲ修正シテ一層重要ナ

ル事ノ時間ヲ奪ヒ部下ノ信用ヲ害スルコトアリ故ニ電話ヲ使用スルハ單ニ迅速ヲ

要スル場所詳言セハ師團ノ戰區内ノミニ限リ夫レ以上ノ場所ニハ電信ヲ使用スヘ

シ

重大ノ命令ハ口頭命令ヲ用ユヘカヘス實驗ニ因ルニ斯ル場合ニハ受令者ヲシテ其

要點ヲ筆記セシメ之ヲ發令者ニ提出シテ其署名ヲ乞ハサルヘカラス

### (三)砲兵ノ動作

現時ノ戰爭ニ於テ砲兵ヲ使用スル際考究スヘキ問題左ノ如シ

現時ニ於ケル砲ノ射程及射速ノ大ナルコト

掩蔽シタル陣地ヨリ動作シ得ルコト

掩壕及掩蔽セル目標ニ對シ効力ノ薄弱ナルコト(圍壁、家屋及急峻ナル斷崖ノ地隙等ハ彈子ヲ避ケ得ヘキ自然的掩蔽タリ)

假令偶然ニテモ榴霰彈ノ射界ニ露出スルトキハ數分時ニシテ多大ノ損害ヲ蒙ラン、現時ノ射程(五露里半ニ達ス)ハ著シク砲ノ射界ヲ増大セリ

榴霰彈ハ破壊的作用薄弱ナル爲メ死的目標ニ對シテハ殆ント何等ノ損害ヲ與フル能ハス(砲ニ對シ榴霰彈ヲ以テ損害ヲ加ヘ得ヘキ部分ハ伸縮機關、照準機及駐退機ヲ指ス?)ノミトス然レトモ此原因ニヨリ砲ヲ戰列ヨリ脱セシムルハ稀有ノ出來事ニ屬ス又圍壁及掩壕等ニ對シテハ殆ント効力ヲ有セス)

著發彈(日本ノ下瀨彈)ハ目標ニ對スル命中彈困難ナル爲メ大ニ其射界ヲ減縮ス故ニ現時ニ於ケル砲ノ根本的任務ハ活物的目標ヲ破壊スルニアリ又基準トスヘキ射擊法ハ榴霰彈ヲ以テスル急射擊トス

緩射ハ敵ノ豫備隊及輜重等村落ニ位置スル事ヲ豫想シ得ル場合ニ應用スヘシ時々

一定ノ場所ニ爆破スル榴霰彈ハ其地ニ滞在スルコトヲ著シク不愉快ヲラシム特ニ敵ニシテ或種ノ手段ニヨリ豫想ノ誤ラサルコトヲ確メタル場合ニ於テ其地點ニ對シ猛烈ニ急射スルコトヲ想フトキハ不愉快益々甚シキモノトス

砲兵戰ハ現今其意義ヲ變スルニ到レリ若シ敵軍我砲兵ニ對シテ發射シ大ニ砲手ヲ失フノ虞アルトキハ宜シク應射ヲ中止シテ好機ノ熟スルヲ俟ツヘシ斯クスルトキハ敵ハ若干ノ急射ヲ行フタル後無益ニ彈藥ノ費消ヲ恐レ射擊ヲ中止スルカ若クハ緩射ヲ爲スニ到ラン此時ニ於テ再ヒ射擊ヲ開始スヘシ若シ我火力優勝ナルトキハ敵ノ砲手ハ掩蓋内ニ避ケ途ニ沈黙スルニ到ラン

斯ル場合ニ火力ヲ以テ敵ノ砲兵(陣地ニ位置スル)ヲ全滅セント欲スルモ最小ノ掩壕スラ破壊スルコト能ハスシテ何等ノ益アルコトナシ

十月十二日ノ戰鬪ニ於テ第三十五砲兵旅團ノ第一中隊ハ日本軍ノ爲メ十字火ヲ受ク一時應射ヲ中止シタルコト數回ニ及ヘリ然レトモ終日火力ヲ保チ將校一下士卒六名ノ負傷者ヲ出シタルニ過キス

現今ノ所謂砲兵戰ハ敵ノ砲兵ヲ絶エス威嚇シ彼ヲシテ我歩兵及乘車砲兵、騎兵等活物的目標ニ對シ發射セシメサルコトヲ目的トスヘシ

適良ノ陣地ヲ撰擇シテ敵ノ偵知シ能ハサル各種ノ豫行作業ヲ巧ニ施シ不意ノ事變ニ應スルノ手段ヲ行ヒ敵ニ對シテ短時間火力ノ優勝ヲ占メ且ツ監視法ヲ適當ニ編成セハ敵ノ活物的目標ト攻撃ノ目的地點ニ對シ多數ノ砲ヲ使用スルコトヲ得

今之ヲ例證センニ四月十四日第三十五砲兵旅團ノ二個中隊ハ漢城堡ニ良好ノ陣地ヲ占メ其火力ヲ以テ沙河停車場及喇嘛屯ニ位置セル敵ノ砲兵ヲ威嚇シ他ノ二中隊

(官屯ニ位置セル第四及第五中隊)ヲシテ恰モ此時沙河堡ニ集中セル敵ノ大軍情報ニ據ルニ約二十大隊トスニ對シ充分安靜ニ動作シ得セシメタリ

射程ノ増進ハ火力ノ集注ヲ大ニ容易ナラシムルニ到レリ故ニ往時ノ如ク砲ヲ長ク配列シテ敵ノ注意ヲ招キ之カ爲メ多大ノ損害ヲ生スル等ノ事ナクシテ其目的ヲ達スルコトヲ得現今砲兵ハ一門宛ニテモ配置スルコトヲ得斯クセハ敵ノ砲兵ハ我配置地點ヲ偵知シ難ク勢ヒ火力ヲ以テ正面及側面ニ對シ非常ニ大ナル區域ヲ監視スルニ到ラン

既ニ前說シタル如ク我軍隊ヲシテ敵ニ發見セラレサル様諸般ノ手段ヲ盡スハ損害ヲ避ケ得ル最善ノ方法タリ故ニ砲兵モ亦敵ニ對シ大ニ意ヲ用キテ監視法ヲ編成セサルヘカラス先ツ監視者將校及下士卒ヲ諸方面ノ戰鬪部隊ニ派出シテ監視セシメ

又比隣部隊ノ觀測所ヲモ利用スヘシ自己ノ注意シタル事物ニ就キ砲兵陣地ノ指揮官ニ速報シ得ルハ電話トス

(此場合ニ信號旗ハ不適當ナリ是敵ニ發見セラレ易キト敵ハ有ラユル場合ヲ利用シテ之ヲ撤却センコトヲ勉ムルヲ以テナリ)

砲兵ハ此情報ニヨリ目標其位置ヲ變シテ擊破シ得サルニ先立チ適當ノ修正ヲ爲スヲ得

又高級司令部地區ニ於ケル及各部隊長歩兵及騎兵ハ敵ニ關シテ注意セル總テノ事項ヲ砲兵ニ通報スル爲メ其方法ヲ講セサルヘカラス

通報報告傳達ノ材料トシテ砲兵中隊ニ對シ被覆線六露里交換所三乃至四ヶ所監視者、中隊長若クハ大隊長ニ三ヶ所ヲ設備スルヲ可トス

監視法ヲ適當ニ編成スルハ貴重ノ彈藥ヲ節約スルノ點ニ於テモ必要ナリ

日本軍ハ充分ニ監視者ヲ配置シ又其補助者トシテ清國人中敏捷ナル間諜ヲ有シタルモ仍ホ何等ノ目標ナキ地點ニ對シ數多ノ砲彈ヲ發射セリ(我軍ニ於テハ鏡、手旗、薪又ハ家屋ヲ燒キテ信號セル支那人ヲ捕獲セル事珍シカラス)

十月十三日、十四日、十五日、十六日ノ四日間敵ハ下瀬彈ヲ以テ毎日一時間乃至一時間

半「インダア」村背後ノ地域ヲ猛射セリ蓋シ日本軍ハ當時漢城堡ニ位置セル我砲兵ヲ以テ同地ニ占位セルモノト誤解セリ

所謂推測的射撃トモ稱スヘキ斯ル射撃法ハ徒ニ彈藥ノ費消ヲ招クニ過キス  
撰擇當ヲ得タル監視所ニ三四人ノ監視者ヲ配置スルトキハ假シ現時ノ砲兵ハ能ク掩蔽シ居ルニモ係ハラス發火及塵埃ニヨリ地圖ニ照應シテ其配置地點ヲ決シ以テ射撃ヲ修正スルコトヲ得

現今砲兵ノ命中力ト火力ノ猛烈ナル事ハ射撃速度ト相俟テ戰鬪上有力ナル武器ト爲レリ故ニ機ヲ見テ火力ノ優勢ヲ占ムルトキハ戰鬪ノ全局ニ貢獻スル所寡ラス然レトモ之レカ爲メ砲兵ハ成ルヘク眼界遠キニ達スル適當ノ地點ニ占位セサルヘカラス又盾ハ榴霰彈ニ對スル掩護トナリ偉大ノ効力ヲ有ス  
然レトモ現時ノ砲兵ハ必要ノ場合ニ掩蔽シタル陣地ニ在リテ動作スルコトヲ得此際編成良好ナル監視法ハ殊ニ重大ノ價値ヲ有ス砲兵中隊長(又ハ大隊長)ハ目標ヲ目撃センカ爲メ終始所屬隊ノ位置ニ居ル能ハス時ニハ前方、側方及後方等可成的眼界遠キニ達スルノ地點ニ位置スルコトアリ斯ル場合ニ電話ハ缺クヘカラサルノ必要  
品トス



陣地ノ撰擇ハ砲兵ノ任務、目標ニ對スル觀測(爲シ得レハ前方ニ於ケル總テノ地物)及榴霰彈ノ効力如何ヲ斟酌シテ決セサルヘカラス  
砲兵ヲ著シク歩兵ニ接近シテ配置スルトキハ我軍ノ頭上射擊困難ナルノミナラス小銃ノ音響ハ砲兵ノ神經ヲ鋭敏ニシ射擊ノ正確ニ影響ス  
陣地ノ變換敵ニ熟知セラレタル土地又ハ猛烈ナル射界内ヨリ脱出スル爲メ砲兵ハ近距離ノ位置ニ陣地ノ變更ヲ行フコト珍シカラス此場合ニハ敵ニ覺ラレサル様神速ニ決行スルヲ要ス然ラサレハ何等ノ益スル所ナカルヘシ  
敵ニ近接スル爲メ陣地ノ變換ヲ行フ事ハ目標ノ距離三露里半乃至四露里ヲ出テタル場合ニ限ル突擊準備ノ際目的地點ニ對スル最良ノ射擊法ハ先ツ最初ノ砲兵陣地ヨリシ更ニ豫備隊ヨリ若干中隊ヲ敵ニ近ク前進セシメ成シ得レハ側面ニ出シテ砲撃スルニアリ  
斯スルトキハ最初ノ砲兵ハ移動ノ爲メ無益ノ損害ヲ蒙ムルノ悞ナク又砲兵ノ増援ハ敵味方ノ士氣ニ影響スル處頗ル大ナリ  
狀況佳良ノ場合ニハ砲兵ヲ突擊ノ目的地點ニ近接セシメ近距離ヨリ砲撃スル事素ヨリ辭スル處ニアラサルモ斯ル場合ハ甚タ稀ナリ

敵軍將ニ降伏セントスルトキハ他事ヲ願慮セス大膽ニ砲兵ヲ前進セシメサルヘカ  
ラス是レ甚タ有利ノ手段ニシテ多少ノ危険ヲ冒スモ可ナリ  
後方及豫備隊ニ對スル射撃ハ多大ノ効力ヲ有スルコトアリ斯カル場合ニ砲兵ハ先  
ツ極度ノ照準ヲ以テ砲火ヲ開始シ敵ヲシテ己レノ敗北ヲ自覺セシムル爲メ可成的  
大ナル延長ニ對シ一時ニ砲火ヲ散布スヘシ十月十二日ノ夜我軍休憩ノ際日本軍ハ  
砲兵ノ運動ヲ躊躇セリ當時我軍僅ニ一ノ假橋ニヨリ殆ント三師團(第三、第三十五及  
第五十五師團)ノ輜重ヲ沙河ノ背後ニ移動セシメ且同停車場ヨリ移動豫備材料其他  
五百人ノ負傷兵ヲ撤却シ得タルハ實ニ敵砲兵ノ躊躇シタルニ依ル  
味方ノ頭上射撃ハ現時ニ於テ充分行ヒ得ル者ト認ム然レトモ此場合ニハ宜シク砲  
兵ヲ集合スルノ危険ヲ避ケ各戰團部隊ニ之ヲ配當スヘシ正面及側方ニ於ケル各種  
ノ目標ニ砲火ヲ轉シ若クハ集中スル場合ニハ其射程ヲ利用スヘシ斯クテコソ砲兵  
ハ戰團ニ於ケル根本的任務詳言セハ掩蔽物ノ背後ヨリ運動セントスル活物的目標  
ヲ絶ニス威嚇シテ悉ク砲火ノ威力ヲ利用スルコトヲ得  
實驗ニ徴スルニ斯ル場合ニ於テ信管ノ變移ヲ生スル如キハ甚タ稀ニシテ熟練ナル  
砲手ヲ有セハ中途ニ爆破スル等ノ危険ナシ

火力ノ統御、現時ニ於ケル砲兵ハ少時間内ニ多大ノ損害ヲ與ヘ急劇猛烈ナル榴霰  
彈ノ射撃ハ士氣ニ影響スル處極メテ大ニシテ敵味方トモ砲兵ノ運動ヲ可成の秘密  
ニス故ニ支隊(師團)長ハ此新式砲ノ利用ト火力ノ統御ニ關シテ根本的智識ヲ要シ又  
一方ニ於テ砲兵家モ廣ク軍事ノ狀況ニ通シ他兵士ノ要求及必要ニ對シ一層之ヲ重  
要視セサルヘカラス

支隊長ハ砲兵ヲ配當シテ其地點ヲ指示シ地區ニ於ケル全般ノ目的ヲ通知シ(假令ハ  
某地點ニ攻撃ヲ準備セントス某村落ニ北方及西方ヨリ近接セントス敵ヲ某森林ヨ  
リ驅逐セントス等其他監視區域等ヲモ指示スヘシ)戰鬪ノ進捗及現狀ニ關シテ詳ニ  
砲兵高級指揮官ニ通報シ以前ノ任務ヲ變シテ新ニ任務ヲ課シ又某地點ニ砲火ヲ集  
中シ又ハ某々ノ地點ヲ砲撃スヘシ等ノ事ヲ命令スヘシ

砲兵高級指揮官ハ中隊ニ對シテ夫々任務ヲ配當シ全正面及側面(管ニ指定セラレタ  
ル目標ニ對シテ)ノミナラス仍ホ有益ナル目標ノ現出ニ對シ地區ノ全般ニ亘リニ對  
スル監視法ヲ定メ監視者中隊及自己ノ間ニ於ケル連絡ヲ通シ仍ホ彈藥補給ノ方法  
ヲモ盡スヘシ

監視法ヲ適當ニ編成スルトキハ單ニ高級指揮官ノミナラス各中隊長モ亦新ナル目

標ニ對シ廣キ射界ヲ得

單ニ上級者ノ命令ヲ俟ツノミニテハ全般ノ目的ニ對シ有利ノ機會ヲ失フコトアリ然レトモ砲兵ノ各指揮官ヲシテ適當ニ獨立的行動ヲ爲サシメントセハ寡クトモ彼等ヲシテ絶エス支隊全地區間ノ戰況ニ精通セシメサルヘカラス故ニ支隊司令部及砲兵高級指揮官ハ常ニ此事ヲ念頭ヨリ脱スヘカラス

監視者及砲兵ヨリ得タル情報ハ其都度直ニ支隊長ニ報告スヘシ

沙河停車場及林盛堡ノ戰鬪ニ於ケル第三十五師團ノ行動ハ實ニ模範トスルニ足ル當時監視法及直互ノ連繫其當ヲ得タルニ依リ日本軍ハ一舉一動我砲兵ノ射撃ヲ受ケ砲兵ヲ附近ノ高粱畑ニ移動スル能ハス又歩兵ヲシテ鐵道堤ヲ越エシムルコトスラ能ハサリシ

砲兵長官タル者陣地撰擇ノ爲メ偵察ヲ行フ場合ニハ監視所及其連絡線ト連繫シテ偵察セサルヘカラス

射撃法 既ニ説明シタル如ク現出セル目標ニ對シ最モ有効ナル射撃ハ「急射」ニアリ目標一度其影ヲ没スルヤ日本軍ハ寡クトモ緩射ヲ以テ後方殊ニ豫備隊及前車等ノ豫想配置地點ヲ射撃セリ若シ彼等ニシテ射界ヨリ脱出セント試ムルトキハ敵軍監

視者ノ發見スル所トナリ常ニ急射ヲ蒙レリ

二十八

十月十七日漢城堡ニ於テ第十聯隊カ砲火ヲ蒙リタルトキ第三十五砲兵旅團第一大隊ノ前車ハ甚タ敏捷ナル行動ノ下ニ辛クシテ擊破セラレ、コトヲ免レ得タルモ輓馬ヲ繫駕スル地點ニ於テ榴霰彈十八匁ヲ爆破セラレタリ

村落掩壕等ヲ射擊スル場合ニ我軍ハ常ニ曳火彈及著發彈或ハ臼砲彈及野砲榴霰彈ノ混合射擊ヲ行ヒタルモ日本軍ハ下瀨彈及榴霰彈ヲ混射セリ

蓋シ其目的タルヤ著發彈ヲ以テ掩蔽物ノ蔭ヨリ目的物ヲ驅逐シ曳火彈ヲ以テ彼等ヲ擊破スルニアルコト

陣地占領ノ命令ヲ受タルトキハ(攻戰及防戰ノ何レヲ問ハス)砲兵ノ陣地進入ニ先立ち各種ノ目標及距離ニ關シテ充分ナル偵察ヲ行ヒ其他射界内ニ現在スル諸般ノ地物ニハ照準及射角ヲ標識セル略圖ヲ調製スルヲ要ス

此場合ニハ陣地ニ進入セル砲兵ヲシテ敵ヨリ何等ノ妨害ヲ受クルコトナク直ニ砲火ヲ開キ得セシムル爲メ最モ秘密ニスルヲ要ス(信號旗其他敵ニ注目シ易キ記號ヲ用ユヘカラス此場合ニ最モ良好ナル標識ハ信號手トス)若シ敵兵ニシテ我砲火ノ開始ニ先チ此標識ヲ發見セハ何等ノ得ル所ナクシテ終ラン蓋シ敵ニ先ンシ

テ砲火ヲ開始スルハ砲兵ノ成効上第一ノ要件タリ

爲シ得レハ重要ナル標識ニ對シ各個射撃ヲ以テ更ニ試射スルヲ要ス

此事ハ中隊射撃ノ際或ル一門ヲ撰ヒテ行ヒ得ヘシ斯種ノ略圖ハ甚タ必要ナリ若シ之ヲ有セサレハ現時ノ砲ヲシテ充分其威力ヲ發揮セシムル能ハス

掩蔽セル陣地ニ占位スル際斯ル略圖ヲ調製スルハ砲兵ノ任務トス砲兵ノ陣地ニハ爲シ得ヘキ第一ノ場合ヲ利用シ掩壕ヲ構築スヘシ掩壕ノ深サハ爲シ得レハ肩ニ達セシメ各壕ノ長サハ三四步壕底ノ幅四分ノ二アルシントスヘシ掘開セル砂土ハ敵ニ對シテ前方ニ積堆シ砲ハ堆土ヲ以テ掩蔽セス單ニ被覆ヲ施セハ足ル此作業ハ普通ノ土地ニ方テ危険ヲ冒シ十乃至十五分ニシテ竣功ス

實驗ニ據ルニ斯種ノ掩壕ハ榴霰彈ニ對シテ充分砲手ヲ掩護シ又手許ノ材料ヲ以テ掩蓋ヲ構築セハ著發彈ニ對シテモ安全ナリ

掩護 現時ノ戰鬪ハ複雑ヲ極メ大ニ士氣ノ發展ヲ要シ又統御上甚タ困難ナルニヨリ戰鬪行爲ノ場合ニハ砲兵ノ爲メ常ニ特別ナル掩護ヲ要ス陣地ニアリテハ砲兵ニ中隊ニ對シ步兵一中隊又行軍ノ際ハ前者一中隊ニ後者一中隊ヲ附スレハ充分ナリ掩護隊ノ任務ハ敵ノ襲撃ニ對シテ砲兵ヲ安全ニシ軌馬缺損ノ場合ニハ砲ヲ運搬シ

又困難ノ場所ニ於テハ砲兵ヲ援助スルニアリ現時ニ於ル戰鬪ノ狀況ハ甚シク錯雜ヲ極メ比隣ノ戰區ニ於ケル歩兵否時トシテ砲兵ト並ヒ位置スル歩兵スラ困難ニ落ミ援助ヲ要求スル際之ニ應スル能ハサルコトアリ之ニ反シ特別ノ援護隊ハ砲兵ノ援助ヲ以テ自己ノ神聖ナル任務ト思惟シ之ヲ實行スルコト疑フヘカラス

千九百四年十月十二日十里河村戰鬪ノ際砲兵第三十五旅團ノ第八中隊ハ河床ニアリテ敵ノ小銃火ヲ蒙レリ

當時其掩護隊タリシ第三百三十八聯隊ノ第十二中隊之ニ協力セサリセハ敵ノ手中ニ歸シタルコト疑フヘカラス

又第三百三十七聯隊ノ第十五中隊ハ三月十日ノ夜自己ノ發議ニヨリ(當時砲兵ハ砲ヲ爆破スヘキ命令ヲ受ケ居レリ)人力ヲ以テ鞍馬ヲ有セサル砲ヲ四露里挽曳シ之ヲ第三十五砲兵旅團ニ交附セリ後是等ノ砲ハ鐵嶺ニ輸送セラレタリ

前車及彈藥車ヲ戰鬪隊(中隊)ノ位置ニ配當スルノ可否ハ掩護ノ必要如何ト彈藥補充ノ狀況ニ因リ決セサルヘカラス

前記ノ關係ヲ斟酌シテ前者ハ成ルヘク中隊ヲ去ル半露里以内ノ距離ニ於テ掩蔽物ノ背後ニ配置シ又彈藥車ハ積載セル彈藥ヲ砲ニ交附シタル後自身彈藥ノ補充ヲ受

ケ後後方ノ或地點ヲ撰ヒテ掩壕内ニ配置スヘシ彈藥車ヲ砲ノ附近ニ位置セシムルハ有害ニシテ毫モ其必要ヲ認メス蓋シ彈藥車ハ人力ニテ運搬シ得ラレ又輓馬ヲ装着シテ運搬スルトキハ敵ノ爲メ掩蔽セル砲兵ヲ容易ニ發見セラル、ノ悞アリ斯ノ如クセハ毫モ彈藥ノ缺乏ヲ顧慮スルノ要ナシ蓋シ沈着ニシテ準備其ノ宜キヲ得ハ前者ノ方法ヲ以テ充分ナリトス

砲彈ヲシテ砲ノ附近ニ於ケル彈藥壕ニ收納スルモ何等ノ危險ナシ榴霰彈ハ彈子(小銃彈)ノ着彈ニヨリ爆發スルコトナシ

砲兵ノ動作ニ關スル問題ヲ終ルニ蒞ミ吾人ハ今其編制ニ就テ數言セン

現時ニ於ケル砲ノ射擊速度ヨリセハ中隊ハ六門乃至四門編制トナスモ可ナリ

八門編制ノ中隊ハ行軍縱隊ノ際殊ニ長大ニ失ス

彈藥ノ補給上完全ナル四門砲中隊ハ左ノ効力ヲ有ス

(一) 現今八門砲中隊ノ有スル總テノ任務ハ充分ニ實行シ得ラル(今回ノ戰役ニ於テ我軍ハ最大ノ急射ヲ行フタルコトナシ)

(二) 四門砲中隊ハ編制小ナルニヨリ一層敏捷ノ行動ヲ爲シ得ラル

(三) 地物ノ應用容易ナリ



(四) 經費ノ點ニ於テ、一層經濟的ナリ

新式砲ハ射速大ナルト火力猛烈ナルニヨリ歩兵一千人ニ對シ一門ノ割合ニ減少スヘシトノ意見アルモ實戰上ノ經驗ニ乏キヲ以テ未タ此說ニ首肯スル能ハス

四門砲中隊ノ効力ニ就テハ他事ヲ別トシ人間ナル者ノ資性ニ就キテ一言セサルヲ得ス即チ現ニ射撃シツ、アル中隊ニ砲數ヲ増加スルモ士氣ヲ昂メルコトナク加フルニ監視者及指揮官ノ外多數者ハ此事ヲ知ラサルモ之ニ反シ新ニ砲兵現出シタルトキハ(假シ二門乃至四門ニテモ)恰モ増援隊新ニ到着シタルニ等シク士氣ヲ奮起セシムルコト頗ル大ナリ

良好ナル測遠器望遠鏡信號及雙眼鏡ハ砲兵及監視者ノ爲メ最も必要トス

猛烈ナル爆藥ヲ裝填シ盛ニ爆煙ヲ發スル着發彈ハ砲兵ノ爲メ大ニ射撃ヲ容易ナラシム

着發榴霰彈ハ殆ント爆煙ヲ發セス然レトモ距離測定ノ爲メ曳火スル場合ニハ側面ヨリ觀測スルヲ要ス

且ツ掩蔽物及村落ニ對シテ射撃スル場合ニハ大ニ火力ノ効力ヲ増進ス

死的目標(掩壕築城物堅牢ナル圍壁等)ニ對シテハ射程六露里ニ達シ猛烈ナル地雷力

ヲ有スル砲種ヲ必要トス

此目的ニ最モ適應スルハ野戰榴彈砲ナラン

吾人ノ意見ニ據ルニ擲射的榴霰彈ハ敢テ其必要ヲ認メス

現時ノ砲ヲ最モ廣ク完全ニ使用シタルハ千九百四年十月十五日第三十五砲兵旅團ノ行動ヲ以テ一ノ模範トナスニ足ル

當時戰團ハ十月ノ十八日ニ亘リ「ネシンツイ」及「モルシチャンツイ」兵モ戰團配ニシテ決セス午後四時林盛堡ノ南部ニ二回突撃シテ失敗ニ終リ盡ク彈藥ヲ消費シタル後無名村落ノ方向ヨリ敵ノ逆襲ヲ蒙リ辛クシテ應戰シ居レリ時ニ「ボルホフツイ」及「ライツイ」兵ハ喇嘛屯ノ前面ニ於テ猛烈ナル敵火ノ下ニ土工作业ニ從事シタル際日本軍ノ林盛堡及其西方ナル沙河ノ河谷ニ集中セリトノ警報ニ接セリ我軍ニハ殆んど豫備隊ヲ有セス此ニ於テ砲兵ハ砲ノ射程及射速ヲ利用セント決シ四十五分内ニ二十分ノ中止ヲ行ヒ七中隊ノ砲兵ヲ以テ(四十二門)八千發ヲ發射シ敵ノ豫備隊ヲ撃掃セリ

爾來日本軍ノ攻撃ハ頑強ヲ極メス沙河ニ於ケル第十七軍團ノ位置ハ確實ナルニ抵レリ電文ニヨリ判斷スルニ十月十四、十五、十六、十七ノ四日間ニ亘ル日本軍ノ損害ハ

死者五千負傷者七千以上ニ達セリ

三十四

1500